

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

～未来社会デザインオープンプラットフォームからの提案～



未来社会デザイン
オープンプラットフォーム

CHALLENGE driveN Convergence Engine: CHANCE

CHANCE事務局（科学技術振興機構）

2022年3月

はじめに

つくりたい未来から課題解決のアクションへ

- 1 つくりたい未来の実現に向けた挑戦
 - ・どんな挑戦を意図したのか？
 - ・どうやって進めたのか？
- 2 出発点となる5つのつくりたい未来像の設定
 - ・どうやって設定したのか？
 - ・5つの未来像はどんなものか？
 - ・5つの未来像はどのような関係にあるのか？
- 3 つくりたい未来像の解像度を上げる
 - ・「自分事化」のワークショップ・デザイン
 - ・ワークショップの進め方
 - ・それぞれの未来像をめぐって語られたこと
 - ・見えてきた重要な論点
- 4 つくりたい未来を実現するための8つの鍵
 - ・「8つの鍵」はどのような関係にあるのか？
 - ・「8つの鍵」それぞれについて
 - ・「8つの鍵」に現れた問題意識

おわりに

「8つの鍵」をテーマにした活動へ

はじめに Introduction

「つくりたい未来」から課題解決のアクションへ

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は、2021年にレポート「『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ」※1を公開しました。このレポートでは、今まで実施した26のワークショップで語られた、研究者や企業、NPO、市民など様々な方々の発言を元に、このまま進めば否応なく訪れる未来「来るだろう未来」と、こういう未来を迎えたいという思いをこめた「つくりたい未来」の2つの未来を導出し対比的に提示しました。

この2つの未来を象徴するキーワードを18個抽出しましたが、ここで提示した「つくりたい未来」を実現するために、何が必要となりどのように取り組めばいいのかを検討するには、これらをさらに具体化する必要があると認識しました。

Category	来るだろう未来 The Future That Will Come	つくりたい未来 The Future You Want to Create
A. 個人視点 (からだ・こころ)	<ul style="list-style-type: none">○ 少子高齢化○ 社会的分断○ コミュニケーション不全	<ul style="list-style-type: none">○ インクルージョン○ Well-being○ 人間らしさの重視
B. 社会視点 (情報技術)	<ul style="list-style-type: none">○ 巨大プラットフォームによる中央管理○ AIへの過度な依存○ 効率性の重視	<ul style="list-style-type: none">○ 自律分散○ 「人」中心の社会○ 人に寄り添うシステム
C. 地球視点 (環境・資源)	<ul style="list-style-type: none">○ 食料・資源の不足○ 環境破壊○ 多様性の喪失(画一化)	<ul style="list-style-type: none">○ 資源の共有・循環(持続可能性の向上)○ 食文化の維持・発展○ 環境保護・改善

※2：未来社会デザインオープンプラットフォーム
(CHANCE：CHALLENGE-driveN Convergence Engineの略称)
オープンな議論のもと、未来の社会をともにデザインし、その実現に向けたシナリオを描き実践するための枠組み。それぞれがネットワークをもつ、15機関、3個人が賛同している。 <https://chance-network.jp/>



※1：課題解決の対話から2050年に向けてつむぐ「来るだろう未来」から「つくりたい未来」へ
https://www.jst.go.jp/sis/co-creation/items/create_future2021.pdf

そこで、このレポートから「つくりたい未来像」を5つ設定し、そこに暮らす人々の生活や課題をありありと描き、その課題を解決する方法を探索する取り組みを行いました。この一連の取り組みをまとめたものが、このレポートです。

この取り組みは、18の機関等が集う「未来社会デザインオープンプラットフォーム（CHANCE※2）」が主体となり進めました。今回、このレポートで提示した「つくりたい未来を実現するための8つの鍵」をはじめとする課題解決のためのテーマについて、読者の皆様とも一緒に考えていきたいと思っています。

1 つくりたい未来の実現に向けた挑戦 Challenge

どんな挑戦を意図したのか？

今私たちの世界は国境を越えて広がり、目まぐるしく変化し、多くの事象が複雑に絡み合っているため、未来はますます不確実なものになっています。このような状況において、私たちが思い描くつくりたい未来を実現するためには、現在の延長線上にある「改善」では十分でなく、現在の社会の仕組みを「変革」することも必要となります。そのためには、法や制度の設計を担う政府の取り組みが重要であることはもちろんですが、地方自治体、NPO、民間企業、研究機関など実社会で様々な役割を担うステークホルダーが、それぞれの視点や知見を活かして主体的に協働する取り組みもまた重要な役割を担うと考えています。

私たち「未来社会デザインオープンプラットフォーム（CHANCE）」には、社会課題解決に強い組織から科学技術に強い組織まで、企業、シンクタンク、フューチャーセンター、NPO、研究所、ファンディング機関など様々な強みを有する18の賛同機関が参画しています。ここでは、賛同機関が、主体的につくりたい未来像を描き、その実現に向けたアクションを実行し、そのアクションの試行錯誤を通して、相互に刺激・促進し学び合い、持続的に成長していくエコシステムをつくることを目指しています。

ここで行われる取り組みが、それぞれの持つ産官学民のネットワークに拡散、浸透し、いずれは社会のムーブメントになることを信じています。このような挑戦の第一歩として、2021年度は、2050年のつくりたい未来像を描き、課題解決のアクションを探索することに取り組んだのです。



1 つくりたい未来の実現に向けた挑戦 Challenge

どうやって進めたのか？

2021年度は、「つくりたい未来像」を設定した上で、そこで暮らす自分自身や身の周りの人々が置かれるであろう未来の状況を具体的に想起できるレベルにまで解像度をあげると共に、その根底にある課題を深く洞察することを目標としました。キーワードは未来の「自分事化」です。

Step1 出発点となる「つくりたい未来像」を設定する

まず、出発点となる「つくりたい未来像」を設定するために、プレワークショップを行いました（8月31日）。ここでは、「『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ」で提示された18のキーワードをもとに整理した5つの未来像（後述）を検討する意義や論点について理解を深めました。

Step2 「つくりたい未来像」の解像度をあげる

そして、これら5つの未来像の解像度をあげるために、2回の「未来創造ワークショップ（「自分事化」のワークショップ）」を実施しました（11月30日，12月7日）。ワークショップの事前資料やワークショップ後のとりまとめに活用するため、関連する文献や専門家へのインタビュー調査なども行いました。

Step3 ワorkshopでの対話を読み解く

ワークショップで語られた5つの未来像をめぐる発言を、一つひとつ丁寧に文脈を読み解くと共に、俯瞰的、横断的に整理・分析すると、未来像を実現するために必要な重要な論点が8つ見えてきました。それが、本レポートのタイトルにもなっている「8つの鍵」です。これらは一見当たり前のように見えますが、私たちが今後目を背けずに取り組むべき本質的な課題を示すものであり、具体的なアクションへの足がかりとなるものと考えています。

レポート「『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ」（2020年度）

Step1

出発点となる
「つくりたい未来像」の設定
・18のキーワードから5つの未来像
・プレワークショップ

Step2

「つくりたい未来像」
の解像度アップ
・未来創造ワークショップ
・文献・インタビュー調査

Step3

ワークショップでの対話を
読み解く
・未来像実現のための
重要論点の抽出

CHANCE賛同機関
のアクションへ

2 出発点となる5つのつくりたい未来像

5 Future Images

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

レポート「『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ」から抽出した18のキーワード（右図上）を中心にレポートを見直し、CHANCE賛同機関にとって、取り組むべき価値のある未来像を、5つ（右図下）設定しました。設定に当たって、CHANCEとして取り組むべき未来像の基準を、EUや英国のミッション設定の基準などを参考にし右図中央の4つに定め、この基準に沿って5つの未来像を設定しました。

さらに、この未来像に関して、検討する意義や論点について対話する場として、CHANCE賛同機関のメンバーにてプレワークショップを開催しました。（2021年8月31日・参加者25名）

ここでは、5つの未来像の説明や山崎宣由氏（東京藝術大学准教授）からの話題提供（「アート視点で未来像を描く～人間の本性からの考察～」）の後、各未来像のグループに分かれ意見交換を行いました。

こうしたワークショップにより、この5つの未来像を今後の議論の出発点とすることへの共感が高まり、検討の意義の確認や新たな論点の見い出しが進みました。

18のキーワード（『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ）から再掲）

Category	来るだろう未来	つくりたい未来
A. 個人視点 (からだ・こころ)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子高齢化 ○ 社会的分断 ○ コミュニケーション不全 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インクルージョン ○ Well-being ○ 人間らしさの重視
B. 社会視点 (情報技術)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巨大プラットフォームによる中央管理 ○ AIへの過度な依存 ○ 効率性の重視 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自律分散 ○ 「人」中心の社会 ○ 人に寄り添うシステム
C. 地球視点 (環境・資源)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食料・資源の不足 ○ 環境破壊 ○ 多様性の喪失(画一化) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資源の共有・循環(持続可能性の向上) ○ 食文化の維持・発展 ○ 環境保護・改善



CHANCEとして取り組むべき未来像の基準

1. **人間の幸福**にとって、困難であるが挑む意義のある未来像であること。
2. 当該未来像の実現に際して、時間を要する何らかの**社会変革が必要**であると想定されること。
3. 当該未来像の実現に際して、単一の有力な解決策がなく、**複数の解決策を組み合わせる必要**が想定されること。
4. 当該未来像の実現に際して、**新たな研究開発要素を含む**もの。



5つの未来像

- A 個人が自律して能力を発揮できる社会
- B 人同士の交流を通じた安心感や喜びを持てる社会
- C 望まない管理を受けず、個人の自由が守られる社会
- D 異なるコミュニティ同士がつながりあっている社会
- E 地球へ返していく「意識」を持っている社会

出発点となる5つのつくりたい未来像

2 出発点となる5つのつくりたい未来像

5 Future Images

出発点となる5つの「つくりたい未来像」とはどのようなものか、未来像ごとに下記のアイコンで整理しました。



未来に変化をもたらす主な要因



懸念される変化や傾向



望ましい変化や傾向



つくりたい未来像を深めるための問い



A 個人が自律して
能力を発揮できる社会



B 人同士の交流を通じた
安心感や喜びを持てる社会



AIなどの技術発展



・AI、デジタルプラットフォーム、
ロボティクスなどの技術発展
・核家族、単身世帯の更なる増加



人の持つ能力が拡張され、個人として
これまで実現が難しかった新たな領域
にチャレンジできる可能性が広がる



便利で快適な生活、不自由のない生活



過度な技術依存により、人に本来備
わっている能力の発揮機会が失われたり、
能力そのものが損なわれてしまう
懸念



人間が本来持つ社会的な性質を発揮し
づらくなり、孤独感や精神的な不安定
さが増し、生きがいを持たない人が増
える可能性



環境変化にしなやかに適応しつつ、人
が人らしく、自分がやりたいことを自
分で見つけ、自分の力を発揮し、自己
実現を図る社会をつくるには？



人同士の交流によって、誰しもが孤独
感や不安を感じず、生きがいを持つこ
とができ、安心感や喜びを得られる社
会をつくるためには？

2 出発点となる5つのつくりたい未来像

5 Future Images

出発点となる5つの「つくりたい未来像」とはどのようなものか、未来像ごとに下記のアイコンで整理しました。



未来に変化をもたらす主な要因



望ましい変化や傾向



懸念される変化や傾向



つくりたい未来像を深めるための問い



望まない管理を受けず、
個人の自由が守られる社会



様々な情報の統合や一括管理の進展



製品・サービスがよりきめ細かく充実



過度な監視や悪用のリスク



望まない情報への誘導や、望まない管理・監視を受けずに、個人の自由意志やプライバシーを守るためには？



異なるコミュニティ同士が
つながりあっている社会



SNSやAI、アルゴリズム等の発展



・関心に応じた効率のよい情報収集
・仮想空間の中で異質なものから批判を受けない安心できる場



社会的な対立を生み、情報の選択権を侵害し、熟議民主主義の基盤を危うくする



既存メディアとの相互作用によりこうした傾向にますます拍車がかかっていくことが予想される中、異なるコミュニティ間でのコミュニケーションの分断を緩和し、ゆるやかにつながっている社会を構築するには？

2 出発点となる5つのつくりたい未来像

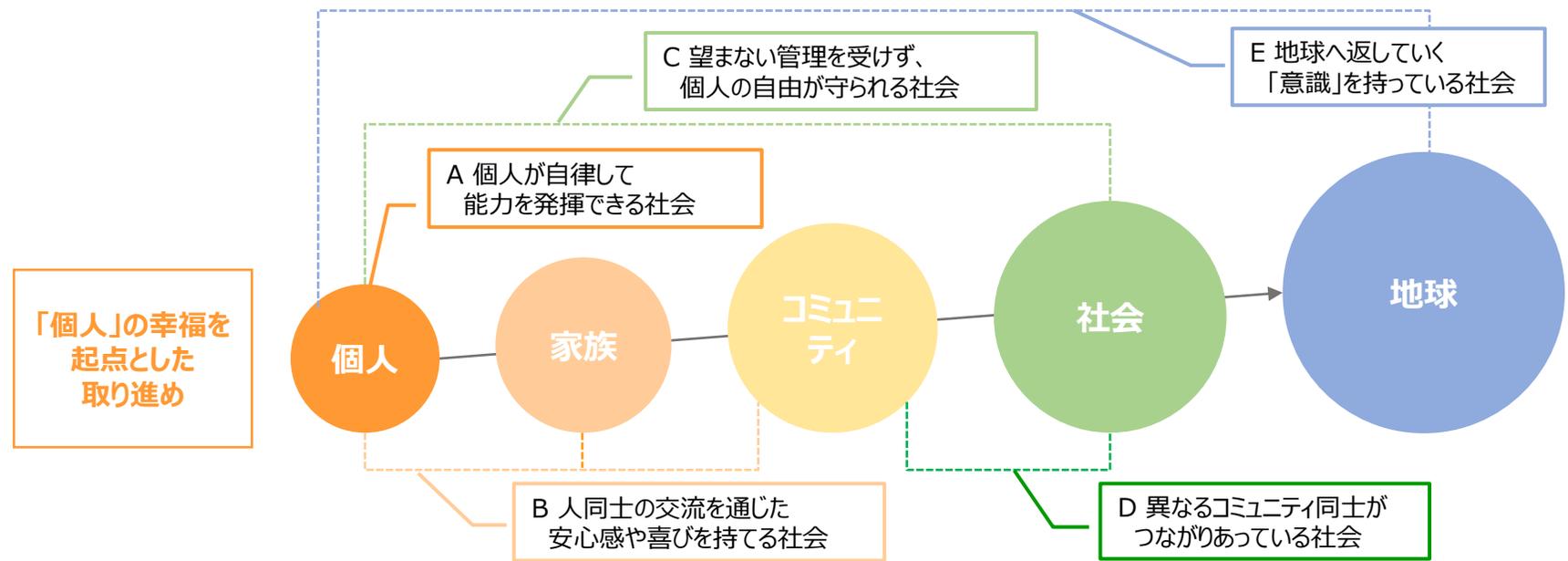
5 Future Images

5つの未来像はどのような関係にあるのか？

下の図では、私たちの暮らす世界を、「個人」を起点に、「家族」、「コミュニティ」、「社会」、「地球」へと広がるシステムとして捉え、その中に「5つの未来像（A～E）」を位置付けました。これら「個人」～「地球」までの各レベルで起きるあらゆる事象は相互に深く結びつき、影響を与え合います。この影響の因果関係はとても複雑で捉えにくく、そのため本当の問題や本当に望ましい状態が何かを見出すことが非常に難しくなっています。

一方、こうした問題の解決への貢献が期待される科学技術は、私たちの日常生活に浸透し、密接不可分になっていますが、分野ごとに細分化され高度化される中で、全体を俯瞰して問題を解決する力が弱くなっています。

私たち一人ひとりには一回限りのかけがえのない人生があります。今回の取り組みでは、この「個人」の幸福を起点として、全体を絶えず意識することに努めました。例えば、「個人」の幸福と「公共」の福祉は絶えず緊張関係にあり、システム全体に対する目配りが欠かせません。また、科学技術の現在の発展の方向性についても疑問を持ち、そのあり方について考えることが重要であるとの認識に立ちました。個別最適に陥らず、総合的な視点を持つために、下記の図に立ち戻り、相互の関係を意識して、5つの未来像を深めていきました。



3 つくりたい未来像の解像度を上げる Enhance Resolution

今回の取り組みで、「つくりたい未来像」の解像度を上げるためにこだわったのは、参加者に未来像を、徹底して「自分事化」し考えてもらうワークショップのデザインです。

ワークショップの参加者には、文献や専門家インタビューから得た、人間の思考、感情、行動に関する本質的な情報（基本情報）と2040～2050年の未来像に関する情報（未来情報）を事前に提示しました。これらは参照情報として有益なものの、この範囲のみで議論していても、一般論に留まり、未来像の具体化は難しいことが予想できました。

そこで、ワークショップでは、参加者個人の体験や価値観に照らして未来を考える「個人ワーク」の時間（内省）を確保し、一人ひとりの深い思考の中で生まれる、自分を主語とした解像度の高い未来像の創出を試みました。このような「個人ワーク」（内省）に、「グループワーク」（対話）を組み合わせることで、新たな気づきを促し、内省的な思考にさらなる広がり担保することを可能にしました。具体的には、参加者が「考え・書く」、「話す」、他者の話を「聞く」を繰り返し、プログラムの進行と共に、一人ひとりの思考が深まる設計にしました。

また、今回の取り組みは、CHANCE賛同機関それぞれが、つくりたい未来像の実現に向けて活動し、社会的なムーブメントを目指すものです。したがって、まずは、参加者自身が、未来像を自分事として捉え、納得し、自分の周囲の人たちを巻き込んでいかねばなりません。そのためにも、絵空事ではなく、手触り感のある未来像を生み出す、「自分事化」のワークショップ・デザインが必要だったのです。



3 つくりたい未来像の解像度を上げる Enhance Resolution

未来は私たち一人ひとりが意志を持って築き上げていくもの。そのような思いを込めて、「未来創造ワークショップ」と名づけた2回の対話を実施しました。ワークショップでは、5つの未来像ごとに、グループ（7人程度）に分かれ、各グループでの結論を出さないことで、参加者一人ひとりの思考を深め、広げることができました。Day2では、「自分事の問い」*について考えることで、参加者それぞれの経験や価値観に基づく、より具体的な未来像（誰にとってどんな状態の未来を目指すのか）の深い考察につながりました。*「自分事の問い」：各未来像で論点となるキーワードに関して自分に引き寄せて考えさせる問い。例えば、未来像Aでは「あなたにとって『自己実現』された状態とは？」、未来像Bでは、「あなたにとって必要とされる/必要とする『居場所』とは？」など。

Day1 (2021年11月30日)

参加者数 33人

概要

5つの未来像の「自分事化」を通じ、CHANCEとして共有できるビジョンの具体化を行う

対話のポイント

- 参加者一人ひとりが持つ知見や経験を共有するとともに、それぞれの未来像に対する「期待」や「懸念」、「疑問」を出し合う。
- 全体でグループ対話の結果を共有した上で、参加者一人ひとりが思い描く具体的な未来像を自分の言葉で語る。

Day2 (2021年12月7日)

参加者数 35人

概要

CHANCEとしてのアクションにつなげるために、ビジョン実現に向けた取組みを検討する

対話のポイント

- 未来像ごとに設定された「自分事の問い」を参加者一人ひとりが考え、グループとして「つくりたい未来像の再定義」と「重要論点の話し合い」を行う。
- また、実現に向けて一緒に「取り組みたいこと」を話し合う。
- 全体でグループ対話の結果を共有した上で対話を深め、参加者一人ひとりが「次の一步」への決意を表明する。

3 つくりたい未来像の解像度を上げる Enhance Resolution

それぞれの未来像をめぐって語られたこと

A
個人が自律して
能力を発揮できる
社会

環境変化にしなやかに適応しつつ、人が人らしく、自分がやりたいことを自分で見つけ、自分の力を発揮し、自己実現を図る社会をつくるには？



【自分事の問題】あなたにとって
「自己実現」された状態とは？

- やりたいことが分かっている状態
- 安心感やゆとりを持ってやりたいことに取り組んでいる状態
- 自分がやっていることが他者の幸せにつながり、そこに成長も感じられる状態



つくりたい未来が実現した姿

- 国民全員が必要な情報を得られる
- 能力・適性を把握・育成でき、それに合った活動ができる
- 身近な人が、出会ったすべての人が、笑顔でいられる
- 一人ひとりの幸せを実現するためにAIが手助けする



重要な論点

- 人間らしさ（=心の豊かさ）を大事にする。
- 自分のやりたいことを持つ。
- 利他心、他人への思いやりが生きがい・自己実現に。



未来に向けた共通の思い

- 自分のやりたいことを持つことが重要
- モノの豊かさよりも心の豊かさを大事にしたい
- 周りの人の幸せや社会に貢献したい
- 人間らしさ=心の豊かさが重要である



一緒に取り組みたいこと

- 自己分析や生きがい探しのプラットフォーム構築
- 需給マッチングや能力開発支援の仕組み構築
- 働き手のウェルビーイングが重視される企業の実現に向けた検討
- 多様な人がつながり、対話する場や機会の創出、等

3 つくりたい未来像の解像度を上げる Enhance Resolution

それぞれの未来像をめぐって語られたこと

B

人同士の交流を通じた安心感や喜びを持てる社会

人同士の交流によって、誰しもが孤独感や不安を感じず、生きがいを持つことができ、安心感や喜びを得られる社会をつくるためには？



【自分事の問題】自分が必要とされていると感じる/必要としている「居場所」とは？

- 自分の経験や能力を発揮できる場所
- 他者との信頼関係を確保できる場所
- 役割をもち、貢献できていると感じられる場所
- 無条件に受け入れられていると感じられる場所
- 本当の自分に戻ることができる場所



つくりたい未来が実現した姿

- 健康を損なった人でも安心して暮らし、社会において自分らしさを追求しながら生活できる
- 交流を望むすべての人が、壁を感じることなく、心地よく人と交わることができる
- 「存在」を感じられるCPS
- 違いを超えて、新しい価値を共創していける
- 多様なコミュニティに所属でき、可能性や幸福度を上げることができる
- 他者の安心感・喜びを尊重できる



未来に向けた共通の思い

- 利他心を持つ社会にしたい
- 他者を理解するためには想像力が必要
- 失敗を許容し、挑戦できることも大事
- バーチャル世界での自分の存在の喪失への懸念
- バーチャル世界でも身体性が重要



一緒に取り組みたいこと

- 規範の構築・共有のあり方に関する検討
- 共創プラットフォームの構築・運営
- コミュニティ形成の試行と検証／サイバー・フィジカルでの共創／実装のサンドボックス
- 多様な生き方に触れる機会の創出
- 情報弱者への支援・対策
- 場の力が作用しにくく、血縁・地縁・社縁に依存しないコミュニティにおける心理的安全の確保に関する検討、等



重要な論点

- 自分の存在の喪失への懸念（アイデンティティの喪失）
- 身体性の重要性の低下への懸念。

3 つくりたい未来像の解像度を上げる Enhance Resolution

C
望まない管理を受けず、個人の自由が守られる社会

望まない情報への誘導や、望まない管理・監視を受けずに、個人の自由意志やプライバシーを守るためには？



【自分事の問題】あなたにとって「プライバシー」や「自由意志」は他の価値と比べてどの程度重要？

- 自分で決められると思えることは、人間にとってとても大切
- 人の大事なものを奪ったり、壊さない限りにおいて、自由意志は尊重してほしい
- 安心・安全や、「自由意志」を侵害しないのなら、プライバシーはなくてもよいかも



つくりたい未来が実現した姿

- 強制がない、選択しない自由も認められる
- 自らにしか取得し得ない経験情報に基づいてうまれた内発的な意志が尊重される
- 異なる意見、価値観を持つ人が包摂されている、無視されない
- 情報弱者でもセキュリティの心配なく技術を使える
- 個人情報がある程度共有され、住民相互にお節介することが、社会課題の解決につながるかもしれない。



重要な論点

- 個人情報がある程度共有され、住民相互にお節介することが、社会課題の解決につながるかもしれない。



未来に向けた共通の思い

- 個人の自由意志は尊重されるべき
- 孤立した人が放置されず、ほどよくお節介のある社会が良い
- 心が平穏であることのほうが重要。自由意志の先にある個人の心の満足感が大事



一緒に取り組みたいこと

- 自由意志の解明
- 個人情報提供の影響や利用のあり方に関する検討（個人情報に関わる問題を所有と共有の間のスペクトラムの中で捉え直す）
- 個人情報の共有による社会的課題解決の可能性の検討（地域のお節介事業に参加してみる）
- ジブンゴト化の推進
- プラットフォーマーとの対話、等

それぞれの未来像をめぐって語られたこと

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

つくりたい未来像の解像度を上げる

3 つくりたい未来像の解像度を上げる Enhance Resolution

それぞれの未来像をめぐって語られたこと

D
異なる
コミュニティ同士
がつながりあって
いる社会

異なるコミュニティ間でのコミュニケーションの分断を緩和し、ゆるやかにつながっている社会を構築するには？



【自分事の問い】異なる意見や価値観を持つ人々との間で、対話が役にたったと感じた経験は？その逆は？

- 世代を超えて価値観の理解が可能になった経験
- 想像力が及ばない気づきを得ることができた経験
- 第三者がいることで、他者理解が深まった経験
- 対話の繰り返しで擦り合わせができた経験
- 感性に寄り添う場面で何度か対立した経験
- お互いの正義がぶつかり平行線に終わった経験



つくりたい未来が実現した姿

- 多様性や価値の多元性を前提したコミュニケーションができていく
- 脆弱な環境・立場にある人を含め、できる限り多くの人が社会とのつながりを得て、それぞれが活躍できる
- 人の役に立ちたい、社会に貢献したい人がのびのびと関与できる



未来に向けた共通の思い

- 利他心を持つ社会にしたい
- 異なる価値観を持ったコミュニティをつなぐ結節点は「共感」
- ヘイト、誹謗中傷、過度な社会的制裁が問題に。
- 分断や対立を防ぐためには、多様な相手への理解と寛容さが必要、また他者理解には想像力が必要



一緒に取り組みたいこと

- 熱量の可視化
- 既存の対話の場の改善
- 新たな協働機会の創出
- コミュニティ間の仲介
- 共感力向上の取組
- 自己理解向上の取組
- 対話以外のコミュニケーション方法の模索、等



重要な論点 • 過度な社会的制裁を緩和し、分断や対立を防ぐために、寛容さが必要。

3 つくりたい未来像の解像度を上げる Enhance Resolution

それぞれの未来像をめぐって語られたこと

E
地球へ返していく
「意識」を持って
いる社会

個人レベルの「意識」改革が求められる一方、個人の「意識」改革を通じたライフスタイルの転換のみでは持続性は確保できない。
それを「社会」変革につなげていくためには？



【自分事の問題】持続可能な社会のために、生活をどの程度犠牲にできる？

- 自分がやっていることが環境負荷が高いと分かれば、ある程度の犠牲は受け入れる
- ルール等で制限されるのであれば従う
- 無理なく取り組むための技術的なイノベーションに期待したい
- 経済的な負担が大きすぎると難しい。
- みな「微責任」を果たせる状態になれば



つくりたい未来が実現した姿

- 環境へ良い行動をすることが肯定され、前向きに応援される
- 誰もが意思決定に参加できることで、ジブンゴト化される
- 最低限の生活レベルが保証され、遊びや余白が生まれ、ポジティブに生きることと向き合える、他人を想うことができる



未来に向けた共通の思い

- 世界の問題に対して、**誰もが自分事として捉えられることが重要**
- 生きること以前向きとなり、他人を想う心を持つことができる社会にしたい
- 我慢するという感覚ではなく、制約があるから楽しいと思えたり、取組がオシャレと思えたら



一緒に取り組みたいこと

- 対話の日常化
- マルチステークホルダーの共創による活動・課題の共有や多視点でのレビュー
- 自己効力感向上のための環境貢献・負荷の定量化・みえる化
- 未来像が実現した社会の仮想体験の創出
- 活動のサードプレイス化、等

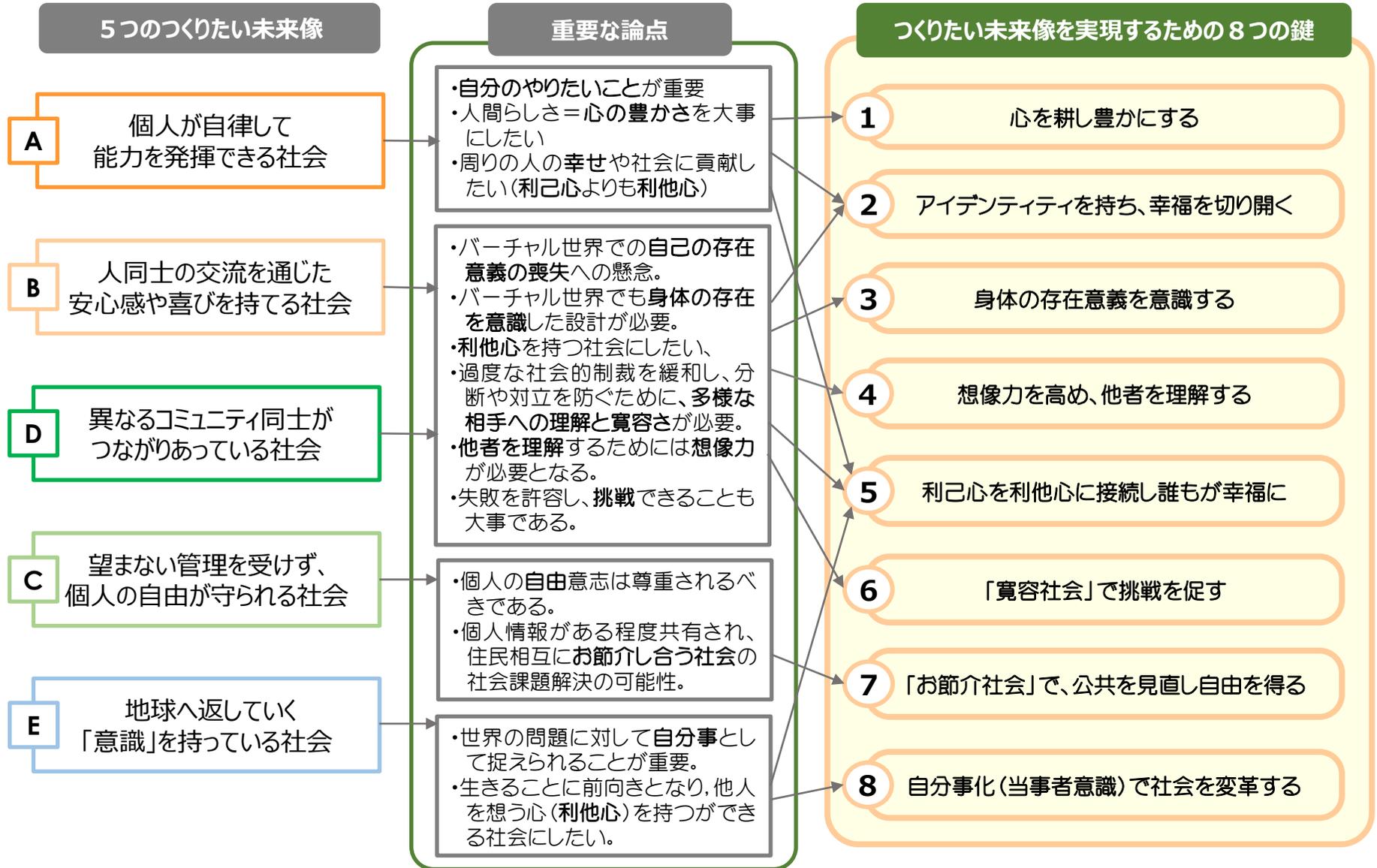


重要な論点 • 「自分事化」が環境問題などの社会的な問題を解決するベーシックな要素となる。

3 つくりたい未来像の解像度を上げる Enhance Resolution

5つの未来像で語られた発言の背景にある文脈を丁寧に読み解き、そこから下記の重要な論点を、見い出しました。さらに、それらを横断的に整理することを通じて、つくりたい未来像を実現するための8つの論点(「8つの鍵」と呼ぶ)を抽出しました。このように、未来像の解像度を上げるワークショップや発言の整理、分析を経て、根底にある本質的な課題を洞察したのです。

見えてきた重要な論点

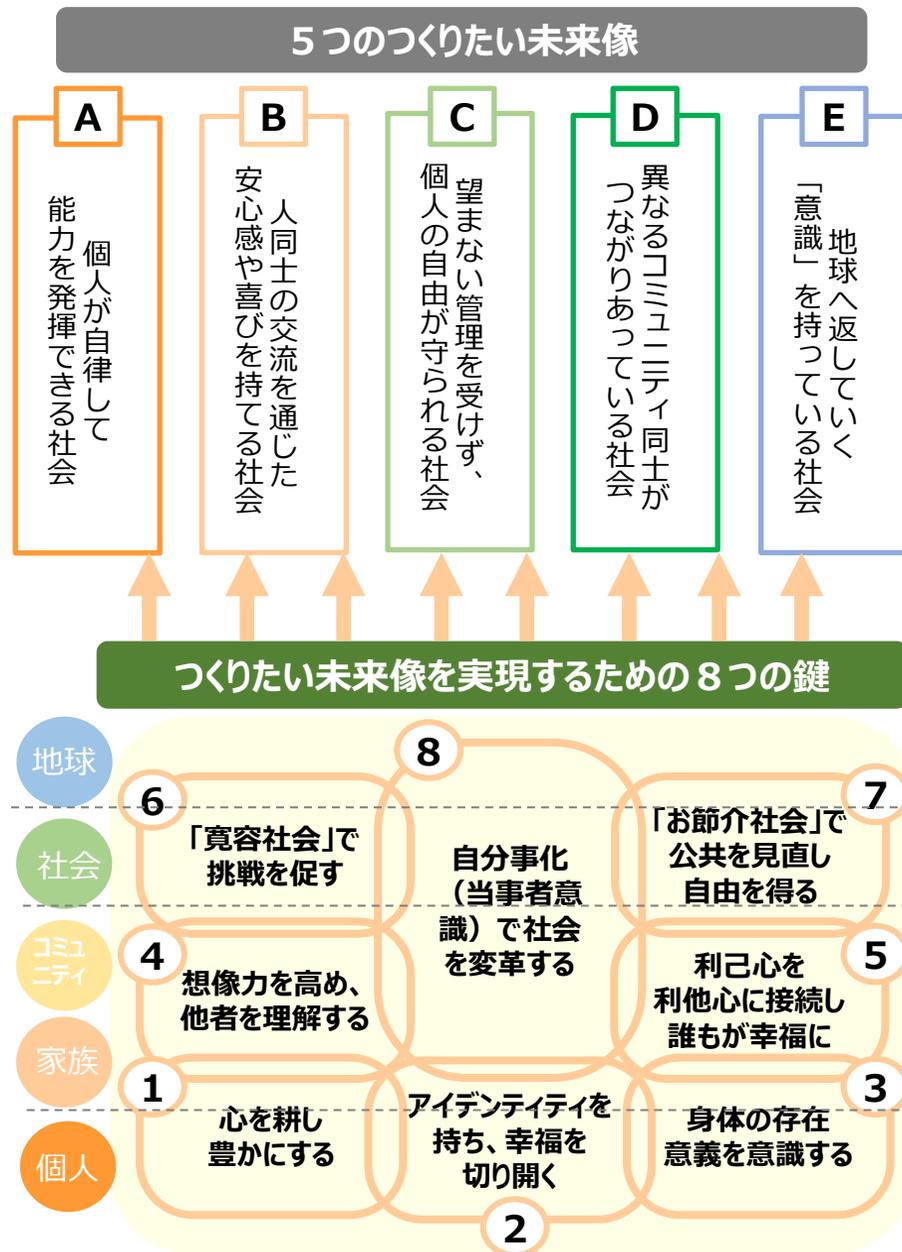


つくりたい未来を実現するための8つの鍵

つくりたい未来像の解像度を上げる

4 つくりたい未来を実現するための8つの鍵 8 Keys for Realizing

「8つの鍵」はどのような関係にあるのか？



重要な論点として見えてきた「8つの鍵」全体を眺めると、これらが5つの未来像を実現するための、本質的な手段であることに気づきました。左の図では、「8つの鍵」が5つのつくりたい未来像を支える構造を表現しています。

また、「8つの鍵」は、「個人」～「地球」の各レベルに位置づけることができます。「個人」レベルに位置づけられる鍵（①②③）は、個人という最小単位に存在している最も基礎的な鍵で、その上位の鍵（④～⑧）を実現する土台になっています。

また、上位にある「社会」レベルの鍵（⑥⑦⑧）が下位にある「コミュニティ」「家族」レベルの鍵（④⑤）や「個人」レベルの鍵（①②③）に影響を与えるなど相互に影響し合う関係になっています。左図で①～⑧が重なりあっているのは、上下左右に影響を与え合う様子を表現しています。

このように「8つの鍵」は相互に関係し成立するもので、その実現に対する取り組みも関連付けて実行することが可能になると考えています。

4 つくりたい未来を実現するための8つの鍵 8 Keys for Realizing

「8つの鍵」それぞれについて

鍵①②③

ここからは、8つの鍵それぞれを、詳しくみていきます。構成は左から、「鍵の名称」、次に、もしその鍵に対する取り組みを行わずに放置すると訪れるであろう「懸念される未来」、最後にその未来で「目指したいこと」の3つの切り口で説明していきます。まずはじめに、「個人」レベルに位置する鍵①～③についての詳細です。

鍵の名称	懸念される未来	目指したいこと
①心を耕し豊かにする	<ul style="list-style-type: none">・知識や知性への偏重が進む。・AIは知識・知性の労働を代替するが、人間らしさは発揮できない。・人間は人間らしさが問われるがそれを十分に育めない。	<ul style="list-style-type: none">・多様な経験の中で感情や感性などの精神性を豊かにする。・自己を肯定し、他者を思いやり、困難に向きあい、未来を想像する力を涵養することにつながる。・個人の人生をよりよい良いものにすると共に、社会全体の幸福度（ウェルビーイング）を高めることにつながる。
②アイデンティティを持ち、幸福を切り開く	<ul style="list-style-type: none">・個人を社会の側に合わせすぎる。・社会化（他者性の拡大）に偏重。・個性を重視し伸ばすことが不十分になる。	<ul style="list-style-type: none">・アイデンティティ（自我）は、自己の存在意義を確認し、他者との違いを認識する上での基盤である。・自己肯定感や自信を生み、自己の幸福の追求につながる。・他者を認め、社会への関わり合いを促し、社会全体の幸福度（ウェルビーイング）も高めることにつながる。
③身体の内存在意義を意識する	<ul style="list-style-type: none">・身体を制約的な存在（ややネガティブな捉え方）として捉える。・知的活動への偏重。・身体を持つ役割が軽視されがちになる。	<ul style="list-style-type: none">・身体は個の形成において、精神と不可分な構成要素であり、何らかの重要な役割を担っていると考えられている。・科学技術の進歩で身体の使用は少なくなり、仮想空間では身体を伴わない個人の内存在やコミュニティが出現しつつある。・人間にとって身体の内存在（存在自体、動作、姿勢等）が、個の形成、人間の思考や感情への影響を解明し、その成果を未来社会の設計に組込む必要がある。

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

4 つくりたい未来を実現するための8つの鍵 8 Keys for Realizing

「8つの鍵」それぞれについて

次に、「家族」「コミュニティ」レベルに位置する鍵④⑤について説明します。

鍵の名称	懸念される未来	目指したいこと
④想像力を高め、 他者を理解する	<ul style="list-style-type: none">・自分が見えているものや自分の視点にのみ囚われ、発想の幅が狭くなる。・他者理解が進まず、分断や差別が広がる。	<ul style="list-style-type: none">・個人の接する世界は広がり、多様な生活習慣、考え方、価値観に出会う機会が増えてくる。一方で、他者理解が追いつかず、分断や差別、さらに格差が深まる可能性がある。・想像力を高めることで、実際には経験しえない他者の体験、過去の事実や未来の状況について理解を進めることが求められる。・想像力を高め、他者を理解することは、個人の幸福を高め民主主義の前提を整備することにもつながる。
⑤利己心を利他心に 接続し、誰もが幸福に	<ul style="list-style-type: none">・利己心に根差した行動がさらに強まる。・自己利益を重視し、他者利益を考慮しない人間像への思い込みが強まる。・他者への信頼の希薄化	<ul style="list-style-type: none">・人間の行為は自分自身の利害に動機づけられるが、同時に他者の幸せや社会に貢献したい気持ちも内包している。・長期的な合理性や高次の自己実現では利己心と利他心は統合されると論じられている。・このようなメカニズムを社会の仕組みに取り込み、見知らぬ人をも助けあう社会の実現を目指す。

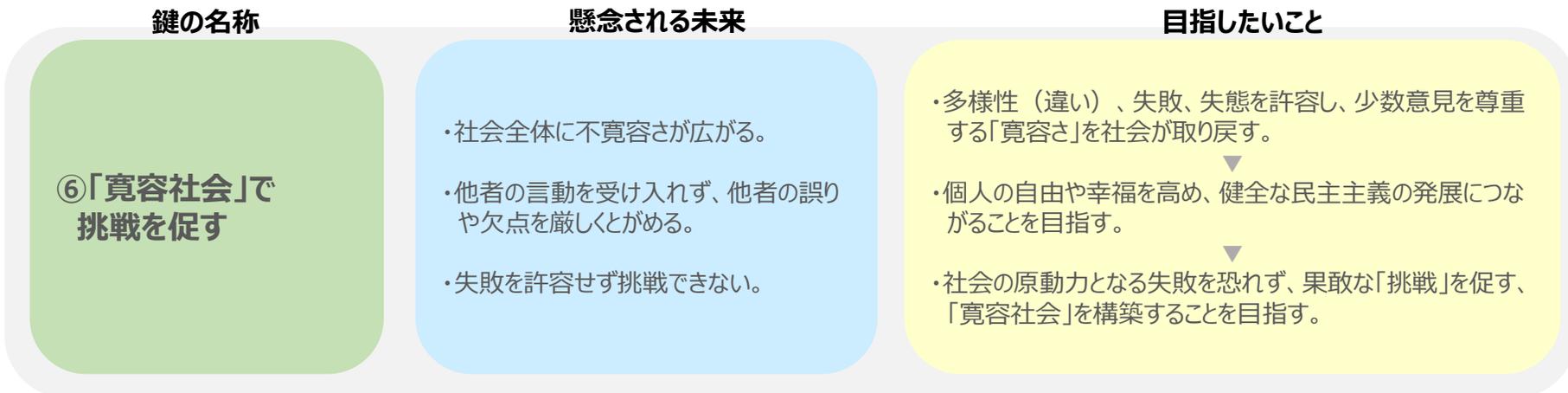
鍵④⑤

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

4 つくりたい未来を実現するための8つの鍵 8 Keys for Realizing

「8つの鍵」それぞれについて

次に、「社会」レベルに位置する鍵⑥について説明します。



《コラム1》「⑥寛容社会で挑戦を促す」における今後の研究開発について

「寛容」や「不寛容」を生み出すメカニズムについては、いくつかの学問分野において研究が進んでいると考えられます。また、寛容社会を構築する方法論や寛容性を確保し挑戦を促す風土や組織を構築する方法論についての研究も進んでいることがうかがえます。今後は、日本における寛容性の現状を把握、分析すると共に、自由や民主主義の基盤として機能し得る「寛容社会」とはどのような状態を目指すべきかについての研究も必要であると考えられます。

(リサーチ・クエッション)	(学問分野例)	(関連する学術的知見・研究例)	(参考情報)
「寛容」、「不寛容」を生むメカニズム、「寛容」を阻む要因は何か？	社会学、メディア学、人類学、認知科学	<ul style="list-style-type: none"> ・共感性の進化や神経基盤の研究を通じて、オキシトシンが共感のメカニズムを支えていることがわかっている。 ・日本のウチとソトを区別する傾向が、ソトへの攻撃につながる。 ・脳波を測り心の状態を可視化し理解することで他者を知ることに繋げる。 ・「寛容性」が様々な種類の人を引き寄せ新しい考えを生み出す。 	異文化に対する受容性に関する研究（2015・Multinational Workplaces）において、異文化に対する受容性のデータを見ると、米国、インド、カナダ、ドイツ、ブラジル、中国、韓国など13か国中日本は最下位である。要素別でも「社会の文化多様性」など8項目中5項目で最下位である。
「寛容社会」はどのようにすればよいのか？ 目指すべき状態はどのような状態か？	社会学、法学、社会心理学、心理学、歴史学		
「寛容性」と挑戦やイノベーションとの関係や挑戦を促進する要素とは何か？	社会学、経営学、工学		

上記の内容は、関連する学術的な知見や研究例をネット上の検索エンジンやデータベースを活用して調査し、今後の研究開発について検討したものです。

鍵⑥

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

4 つくりたい未来を実現するための8つの鍵 8 Keys for Realizing

「8つの鍵」それぞれについて

前頁と同じく、「社会」レベルに位置する鍵⑦について説明します。

鍵の名称	懸念される未来	目指したいこと
<p>⑦「お節介社会」で、公共を見直し自由を得る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無関心、不干涉、他人事という意識が進む。 ・過剰な自己責任論による助け合い精神の後退。 ・個人の自由やプライバシーへの過剰な配慮。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の権利、自由が尊重され、プライバシー保護が求められる中で、他者との助け合いが次第に後退する恐れがある。 ・従来からの「お節介」かもしれないとの懸念から解放し、人間の本来持っている他者を助けたいと思う気持ちを自然に行動に移せる「お節介社会」を実現することを目指す。 ・地域や地域を超えた助け合いが行われることで、公的な秩序と市民的な秩序の見直しが行われ、個人の自由意志の発揮や自己実現が進みやすくなることが期待される。

《コラム2》「⑦お節介社会で公共を見直し自由を得る」における今後の研究開発について

人間の「他者を助ける」思考・情動のメカニズムやそれを阻む要因、さらに日本固有の問題については、多岐にわたる学問分野で研究が行われています。また、「助け合う」社会の構築に向けての研究も、複数分野で進んでいます。今後は、日本における「助け合い」の現状を把握し、そのような結果を生む原因の分析や「助け合い」などの公共的行動の拡大が、社会にもたらす影響やそれを踏まえた目指すべき社会像についての研究も求められます。

(リサーチ・クエッション)	(学問分野例)	(関連する学術的知見・研究例)	(参考情報)
「お節介（他者を助ける）」のメカニズム、それを阻むメカニズムは何か？日本に固有の問題は？	社会学、経済学、人類学、脳科学、認知科学	・ヒトは利他性が高く、脳の配線は互恵的な情動を起こす。 ・利他性は外集団への攻撃性と不可分とする仮説。	世界人助け指数(2021・CAF)にて、日本は総合順位最下位の114位。調査項目の1つ「見知らぬ人を助けたか」という点においても、日本は114位と最下位だった。「日本は歴史的にめずらしいほど市民団体が少なく、国の対策に対する期待が高い」などとレポートは分析している。
「お節介社会」はどうやってつくればよいのか？目指すべき状態はどのような状態か？	社会学、経済学、福祉、都市計画、教育心理学、工学、情報工学	・「公-共-私」の枠組みの再検討、自治会などが担う共領域に意義がある。 ・公共的行動は、組織内の相互依存性、組織へのコミットメント、自由や規律を守るマネジメントに関連。 ・弱さをさらけ出す弱いロボットを通じて、助け合うことを学ぶ。	
「お節介社会」の実現が、公共サービスや個人の自由意志の発揮にどのような影響を与えるのか？	社会学、経済学、社会福祉学、看護学、情報工学		

上記の内容は、関連する学術的な知見や研究例をネット上の検索エンジンやデータベースを活用して調査し、今後の研究開発について検討したものです。

鍵⑦

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

4 つくりたい未来を実現するための8つの鍵 8 Keys for Realizing

「8つの鍵」それぞれについて

最後に、「社会」「地球」レベルに位置する鍵⑧について説明します。

鍵の名称	懸念される未来	目指したいこと
<p>⑧自分事化（当事者意識）で社会を変革する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他人事という意識が変わらない。 ・他人依存のまま何も変わらない。 ・他責、無責任状態が続く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えるには大きすぎる問題や直接的な利害を実感できない問題に対して、目先の利害を優先した行動を選択しがちである。 ・問題への当事者意識を高めるための方法論と、その開発に必要な人間理解を深める。 ・意識変容を社会的ムーブメントへ、そして、社会変革へとつなげることを目指す。

《コラム3》「⑧自分事化（当事者意識）で社会を変革する」における今後の研究開発について

「自分事化」を促す方法論の研究は、現在それが課題として認識されている状況もあり、多くの切り口で事例を中心とした研究が進んでいます。一方、「自分事化」する思考・情動のメカニズムやそれを阻害する要因、さらに日本固有の問題についての研究においては、さらなる研究の余地が残されているように推察されます。また、自分事化によってもたらされる理想的な状態やそれを実現する総合的なアプローチについての研究も求められると考えられます。

鍵⑧

(リサーチ・クエッション)	(学問分野例)	(関連する学術的知見・研究例)	(参考情報)
「自分事化（当事者意識）」を生成するメカニズムやそれを阻むメカニズムは何か？日本に固有の問題とは？	脳科学、人類学、心理学、哲学	<ul style="list-style-type: none"> ・市民革命を経た国とそうでない国で、政府を自分のものと思うか他人と思うかが異なる。 ・権威主義的な傾向が強いと、一部の力のある人間が勝手に決めたことの責任を負いたくないと思う。 ・自分の経験に基づき再構成されたシミュレーション（ゲーム）を通じ未体験の事を自分事化できる。 ・シビックテックを目指した自分事化に基づくオンライン合意形成手法の研究。 	「18歳意識調査（2019・日本財団）」（インド、インドネシア、韓国、ベトナム、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、日本の17～19歳対象）にて「自分は責任がある社会の一員だと思う」「自分で国や社会を変えられると思う」などで、9カ国中最も低い調査結果となった。
個人の「自分事化」が進み、それらを方向付け、「自分達事化」するにはどうすればよいのか？目指すべき状態はどのような状態か？	教育学、環境学		
「自分事化（当事者意識）」、「自分達事化」を通して、よりよい社会実現のための持続的な社会変革推進の仕組みとはどんなものか？	公共政策、システム工学、教育学、社会福祉学、家政生活学		

上記の内容は、関連する学術的な知見や研究例をネット上の検索エンジンやデータベースを活用して調査し、今後の研究開発について検討したものです。

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

4 つくりたい未来を実現するための8つの鍵 8 Keys for Realizing

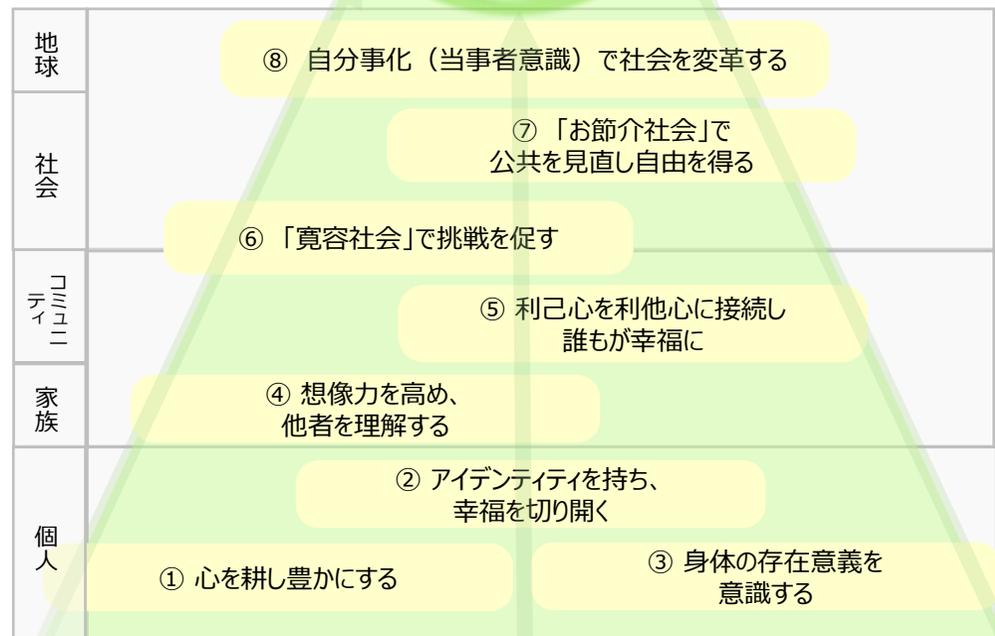
「8つの鍵」に現れた問題意識

今まで見てきた通り、「8つの鍵」はつくりたい未来像を実現するための手段であり、相互に影響を与え合うものです。さらに、「8つの鍵」それぞれを見ると、特別なものは何一つなく、人間が成長する中で自然に身に着けてきたものや人間社会が持つべき大切な要素として語られてきたものばかりです。

それらが、なぜ、今回、つくりたい未来像を実現するために重要な手段として見い出されたのでしょうか？

今回の取り組みは、「個人」の幸福を起点に社会の再設計を目指すものでした。一方で、私たちを取り巻く環境は、科学技術や社会の発展によって、一人ひとりの生活、家族やコミュニティとの交流、さらに社会の在り様まで大きく変わってきています。今回の取り組みの参加者は、そのような変化が将来さらに加速することによって、人間が本来持っていた大切な性質や能力を失うかもしれないとの懸念を抱き、それらをこれからも保持しなくてはならないとの思いを持ったのだと思います。そのような問題意識が、この「8つの鍵」に現れているのです。

「個人」の幸福を起点に再設計する未来



「8つの鍵」は、人間が本来持っていた大切な性質や能力に関連したもの

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

つくりたい未来を実現するための8つの鍵

おわりに Closing & Toward Next Action

「8つの鍵」をテーマにした活動へ

これら「8つの鍵」は、高度な技術に支えられた新しい社会の中で人間としての個人の在り方（一人ひとりの幸福のカタチ）を改めて問い直し、それを実現するために、何をどうすればよいのかを深く考えさせる「古くて新しい問い」と言えるのではないのでしょうか。たとえば、「子育て・教育」、「家族も含めた他者との関係性の構築」、「社会の仕組み・制度」、「科学技術の利活用」など様々な領域で見直しを進めるための本質的な問いかけとなります。

今後、私たち、未来社会デザインオープンプラットフォーム（CHANCE）の賛同機関は、それぞれの機関の特性を活かして、「8つの鍵」を大事にして活動を進めていきます。また、このレポートを読んでいただいた皆様にも、さらなる検討や議論、活動を共に進めていただきたいと思います。

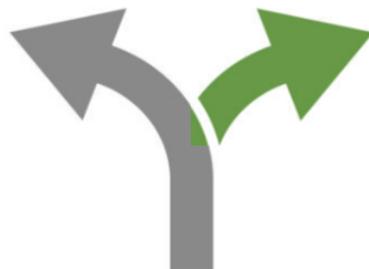
未来のことを将来世代の事として放置するのではなく、様々な立場の多くの人たちが、自分事として考え、対話し、共に活動することが重要になります。そのような活動の実践や試行錯誤を通じて、「つくりたい未来」の実像やそこに向かうためのより良いアプローチが明確になると考えます。

環境問題をはじめ、我々人類が直面する様々な問題を解決するために残された時間は多くはありません。「8つの鍵」を携えて、私たちと共に小さな一歩を踏み出していきましょう。

来るだろう未来



このまま進めば否応なく訪れる未来



つくりたい未来



「個人」の幸福を起点に再設計する未来

制作・発行：CHANCE事務局（国立研究開発法人科学技術振興機構）

制作協力：公益財団法人未来工学研究所

企画協力：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
日本電気株式会社
株式会社三菱総合研究所

別添・・・ワークショップ参加者（氏名・所属組織）

ワークショップ参加者 Participants

倉辻悠平 ETIC.
粕谷直 科学技術振興機構 (JST)
白石由人 科学技術振興機構 (JST)
田村尚之 科学技術振興機構 (JST)
戸瀬浩仁 科学技術振興機構 (JST)
長谷川一途 科学技術振興機構 (JST)
花田文子 科学技術振興機構 (JST)
高木超 慶應義塾大学
片野絢子 神戸大学
北川知樹 神戸大学
松尾萌花 神戸大学
駒井章治 国際工科専門職大学 (IPUT)
尾崎弘之 Japan Innovation Network (JIN)
小原愛 Japan Innovation Network (JIN)
勝呂匡篤 Japan Innovation Network (JIN)
武井杏樹 昭和女子大学
山田英永 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
佐藤勇二 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
芝原暁彦 地球科学可視化技術研究所
尾崎美桜 同志社大学
阪戸俊介 同志社大学
鶴田涼介 同志社大学
松浦凜 同志社大学
山下颯斗 同志社大学
淡路智美 日本医療研究開発機構 (AMED)
勝井恵子 日本医療研究開発機構 (AMED)

岡本克彦 日本電気株式会社 (NEC)
小谷枝薫 日本防災プラットフォーム (JBP)
加藤公敬 Future Center Alliance Japan (FCAJ)
村田博信 Future Center Alliance Japan (FCAJ)
飯田正仁 株式会社三菱総合研究所 (MRI)
大井修一 株式会社三菱総合研究所 (MRI)
白井優美 株式会社三菱総合研究所 (MRI)
須崎彩斗 株式会社三菱総合研究所 (MRI)
関根秀真 株式会社三菱総合研究所 (MRI)
玉川絵里 株式会社三菱総合研究所 (MRI)

<事務局>

難波浩 科学技術振興機構 (JST)
村野文菜 科学技術振興機構 (JST)
日下葵 科学技術振興機構 (JST)
荒川敦史 科学技術振興機構 (JST)
古屋美和 科学技術振興機構 (JST)
関本一樹 科学技術振興機構 (JST)
大川久美子 科学技術振興機構 (JST)
馬場麻里 科学技術振興機構 (JST)
小沼良直 未来工学研究所
田原敬一郎 未来工学研究所
野呂高樹 未来工学研究所
大竹裕之 未来工学研究所
山本智史 未来工学研究所

【ワークショップ参加者の参照情報・文献】

○未来像A

- ・内閣府「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(2021年)
- ・文部科学省「平成29・30・31年改訂学習指導要領」(2017～2019年)
- ・経産省「人生100年時代の社会人基礎力」(2018年)
- ・内閣官房「人間中心のAI社会原則／統合イノベーション戦略推進会議決定」(2019年)
- ・厚生労働省「働き方の未来2035」報告書(2016年)
- ・書籍「「幸福学」が明らかにした 幸せな人生を送る子どもの育て方」前野隆司 ディスカヴァー・トゥエンティワン発行(2018年)
- ・書籍「正義とは何か」神島裕子 中央公論新社発行(2018年)
- ・書籍「AI世界秩序」李開復 日本経済新聞出版発行(2020年)
- ・書籍「人工知能と経済の未来－2030年雇用大崩壊－」井上智洋 文藝春秋発行(2016年)
- ・書籍「2030年:すべてが「加速」する世界に備えよ」ピーター・ディアマンディス他 NewsPicksパブリッシング発行(2020年)

○未来像B

- ・総務省「平成30年版情報通信白書」(2018年)
- ・文部科学省「令和2年版科学技術白書」(2020年)
- ・書籍「コミュニティの幸福論—助け合うことの社会学」桜井政成 明石書店発行(2020年)
- ・書籍「居場所の社会学 生きづらさを超えて」阿部真大 日本経済新聞出版発行(2011年)
- ・ネット記事「コロナ禍で加速する「家族礼賛」時代、おひとりさまは本当に不幸なのか」筒井淳也(2020年)
- ・ネット記事「深いコミュニケーションは、科学技術だけでは実現できない ～NEC未来創造会議分科会レポート～」日本電気HP(2021年)

○未来像C

- ・総務省「令和2年版情報通信白書」(2020年)
- ・書籍「プライバシー・パラドックス データ監視社会と「わたし」の再発明」武邑光裕 黒鳥社発行(2020年)
- ・書籍「操られる民主主義」ジェイミー・バートレット 草思社発行(2018年)
- ・書籍「2025年のデジタル資本主義」田中道昭 NHK出版発行(2020年)
- ・ネット記事「人口減少時代における持続可能な地域づくり—家族と世代間継承の視点から—」山下祐介(2020年)
- ・ネット記事「来たるべき破局を越えるために」大澤真幸・山本貴光(2021年)
- ・ネット記事「未来社会構想2050」三菱総合研究所(2019年)

【ワークショップ参加者の参照情報・文献】

○未来像D

- ・書籍「社会的分断を越境する：他者と出会いなおす想像力」塩原良和他 青弓社発行（2017年）
- ・書籍「分断と対話の社会学：グローバル社会を生きるための想像力」塩原良和 慶應義塾大学出版会発行（2017年）
- ・書籍「ネットは社会を分断しない」田中辰雄他 KADOKAWA発行（2019年）
- ・書籍「希望の歴史 人類が善き未来をつくるための18章」ルトガー・ブレグマン 文藝春秋発行（2021年）

○未来像E

- ・書籍「ナチュラル・ステップスウェーデンにおける人と企業の環境教育」カール・ヘンリク ロベール 新評論発行（1996年）
- ・書籍「なめらかな社会とその敵」鈴木健 勁草書房発行（2013年）
- ・書籍「環境と生命の合意形成マネジメント」桑子敏雄 東信堂（2017年）
- ・書籍「SDGsと環境教育」佐藤直久 学文社発行（2017年）
- ・書籍「自然再生と社会的合意形成」高田知紀 東信堂発行
- ・ネット記事「脱炭素時代の環境意識～ISSP国際比較調査「環境」・日本の結果から～2020年の調査結果より」NHK放送文化研究所（2021年）

○未来像A～E 共通

- ・書籍「2040年の未来予測」成毛眞 日経BP発行（2021年）
- ・書籍「スリーエックス 革新的なテクノロジーとコミュニティがもたらす未来」三菱総合研究所（2021年）
- ・書籍「Society(ソサエティ) 5.0 人間中心の超スマート社会」日立東大ラボ編集 日本経済新聞出版発行（2014年）
- ・書籍「21 Lessons ; 21世紀の人類のための21の思考」ユヴァル・ノア・ハラリ 河出書房新社（2021年）

【ワークショップ参加者の参照情報・インタビューした有識者】

- 未来像A) 神島裕子（立命館大学 総合心理学部 教授）
- 未来像A) 前野隆司（慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授）
- 未来像B) 筒井淳也（立命館大学 産業社会学部 教授）
- 未来像C) 山下祐介（東京都立大学 人文社会学部 教授）
- 未来像D) 遠藤薫（学習院大学 法学部政治学科 教授）